

東奥日報

2017年(平成29年)11月11日 土曜日 (16)

「パープルマム」多くの人に

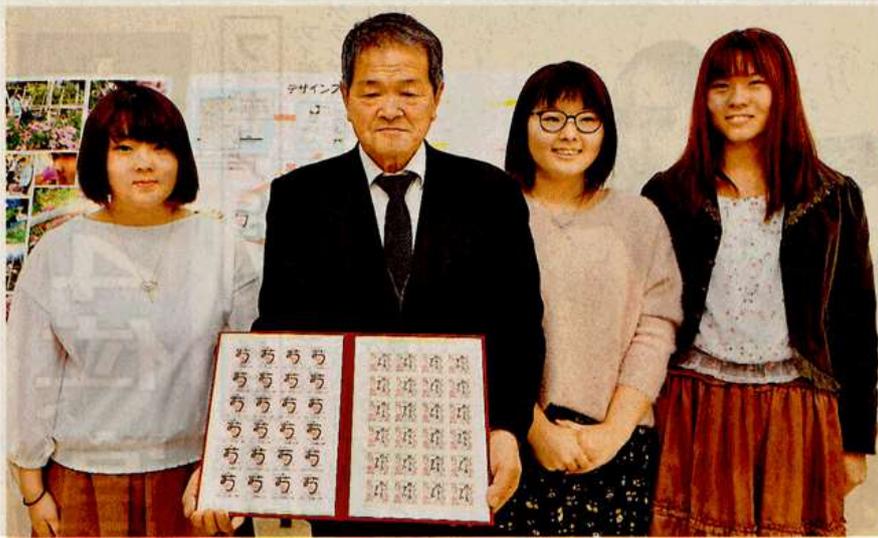
八工大生がラベルデザイン

八戸

八戸工業大学と階上町の菓子店代表・小松國男さんが共同開発した紫色の食用菊「パープルマム」の知名度を高めようと、同大学感性デザイン学部が商品パッケージ用のラベルをデザインした。11月上旬、八戸市の同大学地域産業総合研究所産学連携ラザで発表会を開き、菊の花や葉をモチーフにしたおしゃれなラベルを披露した。

(小橋徹)

おしゃれに女性らしく



パープルマムは山形県や新潟県で栽培されている「モッテノホカ」の改良品種で、紫色の細長い花びらとシャキシャキした食感が特徴。小松代表が2015年に商標登録した。新規作物としての普及を目指し、

新郷村と階上町で栽培されている。

ラベルをデザインしたのは杉山舞さん、藤村安里紗さん、佐藤美紀さんの1年生3人。生花用と菓子や茶など加工品用の2種類作製。ともに女性らしさをイメージし、生花用は漢字の「菊」や花びら、加工品用は菊の葉をあしらった。

デザインを見た小松代表は「良いデザイン。健康食品としても食べてもらえるよう頑張ります」。グループリーターの杉山さんは「女性や子どもも手にとってもらえるようなデザインにした。ラベルとともにパープルマムを多くの人に知ってほしい」と話した。



八工大と小松代表が新規作物として普及を目指すパープルマム

【写真上】ラベルデザインを手にする小松代表(左から2人目)とデザインした八工大の杉山さん(左)、藤村さん(左)、佐藤さん(同下右)加工品用ラベル【同左】生花用ラベル

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」